

トップインタビュー

産業展望台 TOP INTERVIEW

社員・お客様・社会の
幸せを創造する企業

細谷工業株式会社 代表取締役 細谷 可祝 氏

聞き手 当研究所理事長 堀江 信之

細谷 可祝(ほそや・かしく) 氏のプロフィール

1961年 高崎市生まれ
1979年 新島学園高等学校卒業
1985年 駒澤大学 法学部卒業
1985年 藤田情報システム株式会社入社
1990年 細谷工業株式会社入社
2012年 当社代表取締役に就任

会社概要

所在地 高崎市並榎町85-7
創 業 1960年10月
従 業 員 90名
事業内容 冷凍冷蔵設備、空調・給排水衛生設備の総合企画・設計・施工
24時間メンテナンスサービス
営 業 所 富岡営業所、千葉営業所、横浜営業所
U R L <http://www.e-hosoya.co.jp>



■当社について

——御社は細谷社長のお父様が創業されたそうですね。

細谷：はい。私の父が1960年に創業しました。父は高校卒業後に藤田電機株式会社（現在の藤田エンジニアリング株式会社）に入社し、家電製品の営業をしていました。10年程勤務した後、同社から取引先を譲っていただくなどの支援を受けて、高崎市の末広町で業務用冷凍冷蔵庫やショーケースの販売・工事・修理を行う事業を始めました。

魚や肉、野菜や菓子など専門小売のお客様が中心で、昼夜を問わず働いたと聞いています。幼かった私を連れて修理に伺ったこともあったようで、よくお菓子などもいただいたそうです。父の仕事が終わるのを待っている間に、洋菓子店のお客様に人生初めてのプリンをいただいたようで、実は今でもプリンが大好きです（笑）。

創業時は高度成長期の最中で、小売業界ではスーパーマーケットの時代を迎えようとしていました。父は、スーパーの先進地である米国の視察研修に参加し多くのことを学んできたそうです。その後、スーパーの店舗拡大の波に乗り、仕事が増えるなかで、ショーケース国内トップメーカーと、県内唯一の特約店



創業当初の本社

契約を結ぶことができました。

建築設備（空調・給排水衛生設備）の仕事をスタートしたのもこの頃です。

1980年代には、大手コンビニエンスストアの店舗展開時にお声がかかり、空調やショーケースの設置工事を行わせていただくとともに、24時間365日のメンテナンス対応がスタートしました。こうした積み重ねが現在の事業の基礎となり、徐々に事業内容が拡がりました。

■幼少期から社長就任まで

——幼少期はどのように過ごされたのですか。

細谷：引っ込み思案で内弁慶のわりには外で遊ぶのが大好きで、学校帰りに毎日のように道草をして遅くなり、親に叱られていました。足だけは速かったようで、小学生のときは高崎市の陸上競技会の代表選手に選ばれたりしました。高校は新島学園に進学し、現在まで交流が続く友人に恵まれました。洋楽が好きで、バンドブームもあり、高校・大学時代は音楽に埋もれていました。

大学卒業後は、群馬に戻り就職したいと考え、藤田エンジニアリングの藤田登社長（当時）のご厚意で、関連会社の藤田情報システム株式会社（現在の藤田ソリューションパートナーズ株式会社）に入社させていただきました。5年間お世話になりましたが、ここでも良き出会いが沢山ありました。そのご縁は今も続いています。

1990年に当社へ入社した当初は、それまでとは違った業務内容に難しさを感じる場面もありましたが、先輩や上司、仲間の皆さんに色々教えていただきながら経験を積み、徐々に事業や組織の運営にも携わるようになり、2012年に社長に就任しました。



当社入社時の社長

■現在の取り組み

——御社の事業についてお話しください。

細谷:当社は、①冷凍冷蔵設備、②空調設備・給排水衛生設備の設計・施工とともに、③設備のメンテナンス事業を行う総合設備企業です。店舗や工場、ビル、介護施設、公共施設と幅広く、企業や官公庁のインフラを支える仕事をしています。

主に食品等の鮮度保持や省エネ効果の高い冷凍冷蔵技術、空調技術で地域企業のコールドチェーン※の一端を担うなど、モノや人に最適な温度・湿度環境を提供し、お客様の事業や社会活動に貢献してきたと自負しています。

※食品など、温度管理が必要な商品を生産地から消費者の手元に届くまで、低温状態に保つ流通システムを指す。

各事業をもう少し具体的にお話ししますと、①冷凍冷蔵設備の設計・施工の事業では、コンビニエンスストアやスーパーマーケットの冷凍ショーケースから、食品工場の大型の冷凍冷蔵設備まで、お客様の要望に応じて、最適なシステムを設計し、施工しています。

当社では、優れた省エネ性能や霜の生成制



冷凍冷蔵設備システムの設計担当(左)と営業担当(右)が打合せている様子

御機能を有する冷凍設備を提案しており、メンテナンスコスト低減にも繋がると、お客様からご好評をいただいています。

近年では、食品分野でおいしさを保つ冷凍技術のニーズが高まっています。当社では食品を冷凍保管するために最適な温度と湿度を探るための「急速凍結実験施設」を保有しており、お客様からお預かりした商品について最適な冷却温度と時間を計算し、商品の冷却方法や保管方法を含めて提案しています。例えば、昨年、お客様からの依頼で「トンネル式フリーザー」という、特殊な冷凍設備を設計・製造しました。これは、トンネル状の冷凍室内をコンベアで食品搬送しながら、連続的に急速凍結する装置で、組織の損傷やド



トンネル式フリーザーの外観



トンネル式フリーザーの内部。野菜(ブロッコリー(左)やホウレンソウ(右))を急速凍結する様子。

リップを抑え、美味しさや食感・風味を保つものです。このようにお客様のニーズには柔軟な発想で対応しています。

②空調設備・給排水衛生設備の設計・施工の事業では、企業の事務所や工場、老人ホーム・病院、官公庁関連の施設や学校など、業種や規模を問わず対応しています。特に空調設備については、一般的な設備のほか、温度と湿度を高精度で制御したクリーンルームも手掛けています。



クリーンルームの一例(飲料をペットボトルに詰める室で、空気の高清度を調整する)

③設備のメンテナンス事業では、当社が手掛けた冷凍冷蔵設備、空調・給排水衛生設備のメンテナンス(修理や保守点検等)を行っています。特に、設備の不具合が商品の劣化に直結する食品の冷凍冷蔵設備をはじめ、空

調・給排水衛生設備の不具合に365日24時間体制で対応をしています。

また、フロンガス漏れによる機器の保証は10年間無料で行っています。「そこまでは珍しい」と言っているのですが、毎年1回の無償点検でガス漏れ以外の不具合も発見できるため、安心して長くお使いいただくための予防処置としても重要と考えています。

当社の最大の強みは、この3つの事業部が相互に切磋琢磨しながら、設計・施工からメンテナンスまで、社内で一括して手掛ける「総合力」と、お客様の目的やご要望に合わせてシステムを組み立てる「カスタマイズ力」にあると考えています。



■経営の考え方

——どのようなお考えで、経営に取り組まれてきましたか。

細谷：私が入社した頃に問題となっていたのは、社員が辞めてしまうことでした。社員は事業を支える重要な財産です。社員なくして、お客様や社会に貢献することはできません。「ここで働きたい」と思ってもらえる会社にするにはどうしたら良いか、社長になってからますます強く考えるようになりま

した。ただ悩んでばかりではしょうがないと、研修に参加することにしたのですが、そこで講師を務められた企業の社長から頂いた一言が「経営は社員の幸せのためにある」でした。この言葉は私が社長としてやるべきことを示してくれました。

社員の皆さんがやりがいを持ち、安心して長く働ける会社にするためには、会社の目的や存在意義を分かりやすく伝え、皆で共有することが大切と考え、新しい経営理念を作りました。それが『3Hの追求』です。「H」はHAPPYとHOSOYAの頭文字で、ホソヤが追求する3つの幸せ、という意味になります。この目的追求への想いを社員の皆さんと共有し、共に歩んでいきたいと考えています。

細谷工業の経営理念

『3Hの追求』

1. 社員の幸せを追求します
2. お客様の幸せを追求します
3. 社会の幸せを追求します

また、社員の皆さんにはやりがいを感じつつ成長し、チームワークでお客様の幸せ、社会の幸せの実現のために貢献してもらいたいと考えています。そのための具体的な取り組みとして、①「教育」と②「社内活動への参加」に力を入れてきました。

①「教育」では、業務を行うために必要な知識「実学」と、マナーやコミュニケーション、気づきや思いやりの心など人として大切な「人間力」の両方を学んでいます。どちらが欠けても良い仕事はできないと思うからです。

②「社内活動への参加」は、会社全体の一体感を高め、風通しがよくて働きやすい職場をつくるために必要と考えています。普段の

業務だけでは生まれにくいコミュニケーションを通じて、部門部署や役職を超えた信頼関係も生まれつつあります。

「3Hの追求」に向け、社長とリーダークラスの社員が行う「いい会社創造会議」では、会社の未来を見据え、より良い職場づくりや組織の成長を実現するために活動しています。「いい会社ってどんな会社？」から始まり、会社の課題を把握して改善策を考え、実行に移すことで、リーダー層の成長や経営意識の醸成にもつながっています。



「いい会社創造会議」の様子

「わたしたちの会社はわたしたちのアイディアと行動で創る」をテーマに、社員が自主的に立ち上げ、活動するプロジェクト活動もスタートしました。新ユニフォームの検討など、会議室から笑い声が聞こえてくると、こちらも楽しい気持ちになります。

この他、ソフトボール大会や家族参加のバーベキュー、お月見会や忘年会など社員クラブが主催するイベントがあり、社員同士の良い交流の場となっています。

これらの研修やプロジェクト、社内活動への参加や社内報への寄稿、人間ドック受診や予防接種などにポイントがつき、100ポイントたまると賞金が出る「100ポイントチャレンジ」という制度も作りました。ゲーム感覚で社員の成長や健康に資する活動に取り組め



ソフトボール大会（社長は中段右端）



社内忘年会にて（社長は下段右端）

るようにしています。35℃を超えた日数分の報奨金が出る「おつかれサマー」など、遊び心も大切にしています。

——社員を大切にしていच्छいますね。

細谷：社員の皆さんに、「ホソヤを選んでよかった」と思ってもらえることが、私の願いです。ヨーロッパの老舗企業には親子代々、同じ会社に勤めている社員が沢山いて、誇りを持って仕事をしていると聞いたことがあります。社員が子どもにも入社してほしいと思える会社こそ、本当に「いい会社」だと思います。私も当社をそういう会社になりたいと思っています。実は、ここ10年の離職率は2%以下と、以前に比べ大きく下がりました。社員の子どもや社員に誘われたその友人が当社に入社してくれるケースもみられるようになり、とても嬉しいです。

■今後の展望

——今年10月、創業65周年を迎えられますね。今後に向けて、どのようなことを重視していくお考えですか。

細谷：これまで蓄積してきた技術に、新たな技術やAIなども取り入れ、企業や社会の要請に応じて、お客様の課題解決や付加価値向上のお手伝いをし、お客様にとって「無くてはならない存在」になりたいと考えています。そして、強みをさらに磨き、顕在化している課題だけではなく、潜在的な課題やニーズを見つけ解決し、お客様の利益に貢献する「コンサル型ソリューション企業」への成長を図りたいと考えています。



振り返りますと、これまで、創業時や事業拡大の際に、様々な人との縁が当社を支え成長させてくれました。これからも「ご縁」を大切に、幸せ実現に邁進して参ります。

——本日はありがとうございました。

（記事：主任研究員 丸岡美智世）